

# 編集後記

▼教育動向(一〇九ページ)に「国歌」  
「国旗」に関する具体的な解釈を、初めて「小学校指導書」で文書に明記したという新聞記事を載せました。「指導書」の「国歌」「国旗」に関係する部分を資料室に見開き二ページにして載せました。

「小学校指導書における、国歌、国旗のすべて」です。体制側の執拗な押しつけとこじつけに驚きをこえて恐ろしさを感じます。

▼「大江山・松葉保育園訪問記」は「教育情報」三本目の訪問記です。一本目は第四号の「よみがえる能生中学校」、二本目は第八号のインタビュー「中村洋二郎氏、土屋俊幸氏にきくー大鷲中学校部室火災事件ー」です。拙文にもかかわらず好評であったのは、能力中学校の事実の重み、両弁護士さんのすぐれた話の内容が読者をひきよせたものと思われまます。能生中学校訪問記で書き忘れて今も気に

していることがあります。それは一階廊下教室側にずらりと並んだ綺麗な菊の鉢のことです。前の年は、蕾のうちに全部摘みとられてしまったそうです。こんなことを聞いたり、見たりできるのも訪問です。次号から編集部による訪問記を一本ずつ載せる方針です。どんな所、どんな人、あるいは固有名詞を寄せていただければ幸いです。(若月又次郎)

▼「連続幼児誘拐殺人事件」の犯人(容疑者)逮捕という速報を、私は東海道新幹線の車内電光ニュースで見ました。車内に大きなどよめきが起こったことはいうまでもありません。少し前に東京足立区で起きた「女子高校生監禁殺人事件」が人々に大きな衝撃を与え、子育て・教育のあり方が、あらためて問われようとしていた矢先のことでしたから。

▼前号に掲載した汐見講演も指摘しているように、ここ数年、少年による傷害致死事件は後を絶ちません。もちろん個々の事件が起こった背景にはさまざまに錯綜した多くの要因があるでしょうから、

安易にその原因を特定して結論づけることなどできませんが、そこには生命をいとも簡単に抹消してしまう風潮ともいえるべき、共通項が潜んでいるように思われます。本号では、人間らしく生きる生き方を見失わせてしまうような今日の文化状況を直視し、子育て・教育の抱える問題を、家庭における文化の問題としての観点から探ってみたいと考え、「家庭の文化と子育て・教育」をテーマに特集を組みました。(片岡 弘)

## にいがたの教育情報 No. 23

1989年10月31日発行

編集・発行 にいがた県民教育研究所  
 発行人 長崎 明  
 新潟市東中通1-86 山崎ビル2F  
 〒951 電話(025)228-2924  
 振替口座・新潟4-12332  
 印刷所 (有)あかつき印刷所  
 長岡市新産4-4-7

本誌内容の無断転載を禁じます。